

やすらい祭



当館蔵『[都名所図会](#)』安永 9(1780)刊から

今宮神社の摂社、疫神社の祭礼であるやすらい祭は、広隆寺の牛祭、鞍馬の火祭とともに京の三大奇祭の一つで、各地の花だよりが満開を告げる毎年 4 月の第 2 日曜日に行われます。平安時代、陰暦の三月のころ疫病が流行したので、人々が風流をこらして歌い踊り、花の霊を鎮め、無病息災を祈願したのが起こりといわれます。

当日、洛北紫野にやってくるやすらい花の練り衆の一団は約 50 人、今宮神社の北にある光念寺から二組に分かれて出発し、歌い囃し、太鼓、鉦(かね)を打ち鳴らし、桜・椿・若松・柳などで飾られた花傘のまわりを跳びはねて踊り、氏子地域の厄を祓いながら練り歩きます。午後 3 時ごろ、二組の練り衆は神社で合流し、社殿の前で再びやすらい踊を乱舞して花傘に宿った悪霊を降伏させます。この時花傘の下

に入った人はその一年間疫病にかからないといわれます。
現在、やすらい保存会はこの今宮やすらい会の他に、川上・
玄武・上賀茂にも各やすらい踊保存会があり、古い信仰のか
たちを今に伝えています。

(「総合資料館だより」No.91(1992年4月1日)より転載)

(2017年4月9日公開)